

いそくじ 以速寺通信

2012/7 第117号

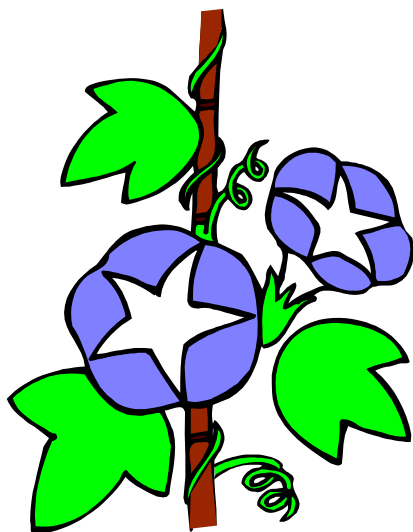
真宗大谷派三鏡山以速寺 発行

〒593-8312 堺市西区草部 79

TEL 072-275-0339

FAX 072-272-3020

今年も夏がやって来ました



人生には

無駄なことは

何一つありません

平野恵子

永代経 法話 (抄) その3

蓮正寺住職 三好 泰紹 師 みよし ひろく

2012/4/21

お経というのは一番最初に出てくる言葉が同じなんです。順番が違ってもあるんですが、「如是我聞」もしくは「我聞如是」というお言葉です。

これは「我はかくのごとく聞きたまいき。」ですから、ストレートに私はこのように聞いたという意味ですね。

お経を初めて文字にされた方々が釈迦さまから私はこのように聞いたということを表してくださった言葉です。皆さん方もそうなんです。何か前でひげ面の坊さんがしゃべってるなどいうのでなく(笑)、聞いたことを腹にきちんと入れるということが大切なんだとこのお言葉が教えてくださるのです。で、もう一つ意味がありまして、漢文ですから、古い中国のお言葉です。これを有る先生が中国の方に「こんなことば知ってますか」と聞かれたそうです。そうしたら「おお。知ってますよ。私の前に新しい世界が開かれたという意味です。」と説明してくれたそうです。

今まで私たちは、社会、世の中で色々を経験も積み、勉強もし、知識と言うものを頭の中に沢山詰め込んでいます。今の若い子は特にそうですね。

ところがお釈迦様のお言葉に出遇って、私の前に新しい世界が開かれた、いままでの私たちが積み重ねておった事柄が、全然違うように見えて来た。新しい世界が開かれた。ということですよ。



明日は花まつりだそうですが、つい二、三カ月前まで受験で大変やった子どもたちもいますね。

何年か前にこんな四コマまんが見ました。

皆さん方もご経験あると思います。子どもさんに「勉強しなさい。」て、言いませんでしたか。

僕もよう言われました。で、勉強してるふりは上手になりました。勉強は全然あきませんけど。

で、まんがの中でも親が子どもに勉強しなさいって言うんです。

そしたら子どもが「何のために勉強するの？」って聞きます。親は「良い高校に入らなあかんやんか。」と答えます。すると、

子「ふうん。なんで良い高校に入らなあかんのか？」親「それは良い大学に入るためや」

子「なんで良い大学に入らなあかんのか？」親「良い会社に就職するためや」子「なんで良い会社に就職せなあかんのか？」「そら、良い会社に入って偉くなるためや」

子「じゃあ、良い会社に入って社長になったら何かあるの？」親「良い葬式してもらえるやんか」。

子「じゃあ、僕は良い葬式してもらうために、今勉強するの？」

親「・・・」っていう内容です。

どうですか。簡単に言うたらそうでしょう。私たち「偉くなりなさい」と言ってる、最後はどうかといったら、そういうことじゃないんですか。これが私たちがしていることなんです。

ところがお経さんには、私の前にそういうことではない新しい世界が開かれて行くと書いてあるのです。文責住職

しゅうそしんらんしゅうにん

宗祖親鸞聖人物語三

— 吉水での学び —



「ああ、そつか」膝を打つ綽空（しゃつくう）こと親鸞聖人。

「どうした綽空（しゃつくう）『観無量寿経』など比叡山でも散々読んできたであらう」

法然上人のもと、吉水の草庵で学ぶ親鸞聖人に、兄弟子が声をかけた。

「はい、その通りなんですが、善導大師の著された『観無量寿経疏』（かんむりようじゅきようしよ）を通して読むと、今まで気が付かなかったことがどんどん見えてきます。」

「そつさな。善導大師の『観無量寿経』に対する視点は素晴らしい。しかし、この註釈書とも言える書物も、お山で読んできたのではないか？」

「これまた、おっしゃるとおりです。何度も読ませていただきました。」

しかしその実は、読めていませんでした。善導大師の感動が全く伝わってこなかったと言った方が正確です。

当時は何度読み直しても、心を動かされることはありませんでした。

いえ、正直に申せば偏った読み方とさえ思っておりました。『観無量寿経』とはすばらしい修行方法が書いてあるお経であり、お念仏が説かれているなどとは思いませんでした。」

「なるほど、綽空は正直じやの。善導大師の注釈が偏っておるとは、こりや愉快じゃ。」

「愉快と言っていただけと。。。」

しかし、お山では何の感動を得ることも出来ませんでした。一見素晴らしい修行方法でも、誰も、いえ私が実践が出来ない絵に描いた餅ではしかたがないのです。仏道の門が閉じられたようにさえ感じました。

それが、法然上人にであって一変したのです。」

「ふむ。それはな法然上人に出遇って身をおして自分で考えるということとを学んだからじゃよ。法然上人はお念仏で救われるとは、いかなることかを身を持って示されておられる。そなたはそれを感得されたのであらう。」

親鸞聖人は深くうなづいた。

参考 平常のお飾りです↓



お盆には、平常のお飾りに、打敷を掛け、一対の小餅をおそなえしましょう。
お花も蝋燭も一つずつです。

上卓用打敷

前卓用打敷

お平こ飾れりのは

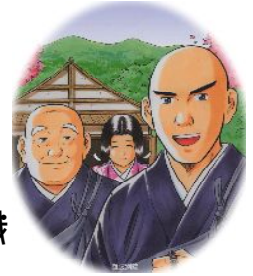
ちよつと早めに案内
お内仏のお盆のお飾り

たいや 以速寺お逮夜のご案内

親鸞聖人のご命日は11月28日です。そこで、毎月27日の夜に以速寺本堂で「お逮夜」（法要前日の夜のお勤め）を勤めます。

また、「まんがで読む宗祖親鸞聖人」も重ねて開催します。
まんがも資料もお寺で準備します。

皆様お待ちしています(^^♪



● 7月27日 午後7時30分から お話 住職
うらばんえ
孟蘭盆会 お盆のお勤めを勤めます。

● 8月15日 午後7時30分から お話 住職

第32回夏季仏教講座のご案内

☆と き 8月3日（金） 午後2時30分～午後4時30分
（開場 午後2時）

☆ところ 堺市民会館（大ホール） 072-238-1481

☆講 師 いちらく まこと 一楽 真 師 大谷大学文学部教授

☆演 題 『浄土を願って生きる』～つながりの回復～

大阪教区第21組が主催する夏季仏教講座です。どうぞご予約ください。



編集後記

暑くなると、海に行つて真つ黒になつたことを思い出します。私は海から遠いところで育つたためか、どこか海は特別の存在です。また、先日は大学生の娘が、サークルで海に初めて潜つたと喜んでいました。

さて、この春から親鸞聖人のまんがを、皆さんと一緒に読み始めました。もう少しすると聖人と海との出会いが語られます。それは、海水浴に行くような気軽な出会いではなく、流罪によつて越後に流されるという深刻な出会いでした。日本海は、京都生まれの聖人を荒々しく出迎え、容赦なく襲いかつたのではないのでしょうか。そのためか、皆さん「存じの 帰命無量寿如来」で始まる『正信偈』にも海の表記が何度も出てきます。

ところが不思議なことにそれには二つの側面があります。一つは「本願海」と言うように仏様の徳をあらわす世界を表し、もう一つは「群生海」と私たちの煩惱まみれの世界を表します。

ある先生に相談すると「どちらも海なんだよ。」と謎かけのような言葉を頂きました。私たちが作り出す汚れた海とそれを包み込む母なる海ということでしょうか。正直、今一つピンときません。

ただ一つ間違いないのは、食事からエネルギーまで、私たちは海の恩恵の上に生活が成り立っていることです。しかしそれを忘れて汚れているのも私たちです。

どうも私は「本当に大切なこと」を忘れて生活しているようです。さてこの夏は、「本当に大切なこと」を考えながら過ごしてみようと思います。

住職 山雄 竜磨